

令和元年度第4回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会  
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和元年11月25日(月) 午後3時00分～午後4時45分

2 場所 秋田市役所 職員研修棟 第1・2研修室

3 出席者

(1) 委員(11人)

奥山順子会長、相場哲也委員、伊藤由香里委員、小林崇之委員、  
佐々木亮次委員、佐渡谷和裕委員、澤口勇人委員、鶴田悦子委員  
中川聖子委員、福田廣美委員、山崎純委員、

(2) 事務局

子ども総務課長(佐々木良幸)、子ども育成課長(夏井保)、  
施設指導室長(脇坂正憲)、子ども健康課長(加賀谷洋子)、  
子ども未来センター所長(新田目剛)、ほか関係職員

4 傍聴者 3人

5 会議の内容

○開会

○議事

「(仮称)第3次秋田市子ども・子育て未来プラン(素案)」について

○閉会

6 議事要旨

○奥山順子会長

それでは、議事の(1)「(仮称)第3次秋田市子ども子育て未来プラン(素案)」  
について、事務局より資料1・2の説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○相場哲也委員

P5に世帯数を入れた理由を教えてください。

P3の評価基準について、目標達成であればAなのではないか。Sは特に優れて  
いるものと感じる。また、目標設定に関しては、設定が甘いと思う。プランを策定  
して翌年度に達成できるような目標ではなく、令和6年度に達成できるような目標  
設定をしてほしい。

満足度を指標にしているものがあるが、満足度は人によって異なり、施策が進むことが、必ずしも満足度の上昇につながらず、それを100%にするというのは不可能であるため、満足度を指標にするのはどうかと思う。

○事務局

各施策の中で、核家族化の進展を現状としてあげており、それを指し示すため、世帯数を入れたものである。

○相場哲也委員

掲載されているのは、平成27年度のデータである。少しでも最新のデータを掲載したほうが、傾向がより正確にわかるのではないか。

○事務局

ご意見として頂戴し、評価基準について検討する。

○福田廣美委員

P16の(1)のイ、計画全体の評価について、令和5年度に意識調査を実施するとあるが、対象者を今までの意識調査の回答者と同じにしなければ、どのように意識が変わったのかわからないと思う。

各施策に目標指標が定められているが、中間の目標設定も必要であると考えます。

先ほど相場委員の意見でもあったが、私も評価Sというのは特に優れたという認識があるため、評価基準を再度検討していただきたい。

○事務局

意識調査の対象については、委員のおっしゃる方法も考えられるが、これまでも信頼度のある対象者数を無作為で抽出し、調査を行っている。保護者の考え方は変わっていくかもしれないが、その時点の就学前児童や小学校児童の保護者の意識を捉えるということでは有用と考えている。

○澤口勇人委員

先ほど、最新のデータをという話があったが、人口などは市のホームページで、H31年度の数字も出ている。少しでも新しいものを使用した方が良いと思う。

P17の指標の待機児童数であるが、実態を捉えた数字ではない。希望した施設に入所できてはじめて、待機児童が0になるものだと思う。他の自治体では、本当の数字を公表しているところもあり、秋田市としても同様にして欲しい。

質の高い幼児教育・保育について、国では1歳児に対し、1人で6人保育することができるとしているが実際は不可能である。新潟市では、条例で0歳児の基準と同様の1対3としている。質を高めるという意味では、1対6ではなく、1対4など、目標として示してもいいと思う。現場では予算が付かなくても自主加配している現状である。

P22の休日保育について、ニーズがあるのは分かるが、受け入れ体制を整えられない。もう少し市として具体的な対策を講じてほしい。

○奥山順子会長

P19に「子どもの育ちや指導方法等についての共通理解」とあるが、それぞれの取組について正しい理解が進むよう、「相互理解」ぐらいでよいと思う。

○山崎純委員

P 2 3 の地域子育て支援事業について伺いますが、No. 1 の指標に子どもの数とわかるように記載していただきたい。量の見込みから立てたこの目標値は適切なものか、現場の者からすると達成の見込みは困難だと感じる。また、平成30年度の実績値について、計っていないとのことだが、子ども未来センターではカウントしていないのか。

○事務局

子ども未来センターではカウントしている。

○山崎純委員

子ども広場でも、子どもの数はカウントしており、365日開館して、利用者数が11,430人となっている。目標値を他の広場を含めた9箇所を割った時の平均が21,533人となり、目標の達成は困難と考える。

○事務局

目標値について、検討する。

○澤口勇人委員

P 2 6 の放課後児童対策の充実について、目標指標を達成するためにどのような施策を講じていくのかが見えてこない。また、放課後児童クラブの質の向上も目指すべきではないか。

○奥山順子会長

安全を確保しながら、自由な過ごし方ができている施設と、できていない施設があり、全体として量とともに質の向上も目標としてほしい。

○山崎純委員

P 3 2 の食育の推進について、指標の「1日1回はみんなで食事をする」割合が高い水準にあり、継続して欲しいと思う。また、食卓でのコミュニケーションについても子どもの心の健康に繋がっていくため、離乳食教室などを通じて広く伝えていただきたい。併せて、学校等における食育の推進についても、子どもの年齢に応じた選食能力が必要と考えるため同じく、広く伝えていただきたい。

○奥山順子会長

「1日1回はみんなで食事をする」割合の根拠はなにか。

○事務局

3歳児健診の際に実施したアンケートの集計から出したものである。毎年調査をしており、少しずつ増えてきている状況である。

○相場哲也委員

P 4 6 の目標指標で高校生の県内就職決定率が令和6年度までで2%しか上がらないのか。せめて全国平均まで高くできないか。

婚姻率も全国平均と0.7ポイント差としているが、もっと目標を高く設定してもよいのではないか。

○奥山順子会長

P 3 7の保育士体験事業の受入れについて、認定こども園、幼稚園、保育所とあるため、保育士と限定せず「保育体験」にしたらどうか。

○事務局

そのように検討する。

○澤口勇人委員

P 5 5の虐待に対する実績は0だが、虐待まではいかなくとも、劣悪な環境におかれている児童もいる現状を実感している。

P 5 9の障がい児の受入れ施設について、保育士不足などもあり、受け入れたくても受け入れられない現状もある。令和6年度の施設数を目標値50としているが、実のあるものとしてほしい。

副食費助成について、この素案のP 6 3、6 4を見ると一部幼稚園の副食費に関する事業は掲載しているが、既に幼児教育・保育の無償化が始まり、他の市町村では副食費に対する支援を行っており、秋田市は、方針が出ているのに、プランへの記載が遅れていると感じた。

○山崎純委員

P 4 4の青少年健全育成活動の推進の1、情報モラル指導の充実について、発達段階に応じた授業資料とあるが、どのような資料か。

○事務局

教育委員会が担当しており、現時点ではお答えできない。

○山崎純委員

先日、スマホに関する研修会に参加させていただき、ベネッセの調査で8割の保護者が乳幼児にスマホを使用させたことがあると回答しており、そのうち94%が子どもに悪影響が出るのではないかと不安を感じているとのことであった。スマホは乳幼児の発達に影響があると考えられるため、実態調査をするとともに、施設や保護者に対し、情報提供をするなど、スマホが乳幼児にあたえる影響を予防するための対策をして欲しい。

○澤口勇人委員

秋田県教育委員会が作成した資料に、未就学の子どもの保護者に対して、「ネットデビューは3歳を過ぎてから」と記載されていたことに非常にショックを受けた。これを見ることによって保護者が勘違いをする。

○奥山順子会長

目標指標の項目の表現について、交通事故発生数や児童虐待を「目標」「実績」と表すのに抵抗がある。ネガティブなものについても「目標」「実績」と表現するのか。

○事務局

表現について検討する。

○奥山順子会長

ほかにはないか。ないようなので、これをもって議事を終了する。